



▲市役所窓口に設置しているご意見箱

Q ⑲ 財政状況などは厳しいがアイデアで乗り切れる。市民のアイデアを吸い上げるためにもご意見箱などを市民に広く公開し、市民の提案も生かしてほしい。(八木公民館)

A ⑲ 市民協働を進め、市民の皆さんと共にまちづくりを進めるシステムづくりを行います。また市役所に寄せられたご意見などは、市民の皆さんと共有できるように、広報誌やホームページでも随時紹介していきます。

Q ⑳ 市民の声を吸い上げるためにも各種審議会委員は公募性にするなどの改善を

し、委員の氏名も公表してほしい。(国際交流会館)

A ⑳ 各種審議会委員の選任にあたっては公募を心掛けています。審議会委員名簿や会議内容については、市のホームページや市役所の情報公開コーナーで閲覧いただけるよう広く公開しています。

Q ㉑ 広報なんたんの市民意識調査結果に、合併して4年近くなるが、「市の魅力」も「地域の活力」も無いという結果が掲載されていて残念に感じた。我々の住むまちに魅力と活力と展望を持って市民がまちづくりに参画できる抜本的な夢のある施策を考えてほしい。(八木公民館)

A ㉑ 「市の魅力」も「地域の活力」も南丹市のまちづくりにには欠かせないものです。調査については実態を表すものとして真摯に受け止め、現実の課題を直視し、より良い市政の実現に向け検討していきたいと考えています。

Q ㉒ お知らせ版やパンフレットなどの配布物が多く、すべ

て読むことができないが何か方策はないか。(日吉市民センター)

A ㉒ 市からの配布物が多く、読みきれないとの意見があることは承知しています。重複した内容の配布物にならないよう、他の機関とも調整し、減量化に努めます。また、紙面だけでなく、CATVやホームページ、インターネットなどを活用して、それぞれの媒体の特質を生かした情報発信、情報公開により、行政を理解していただき、情報共有していただける方法も考えていきます。

Q ㉓ 資料の人口一人当たりの決算額を見ると南丹市は京都府平均の倍になっているが、南丹市民は府内でもぜいたくをしているということなのか。(八木公民館)

A ㉓ 決してそういうことではなく、人口は少ないが広域であるため行政需要が多くなり、一人当たりの決算額も平均を上回る結果となっています。今の財政状況で切り詰めるべきは切り詰め、全体的な視野から支出抑制に努めていきます。

